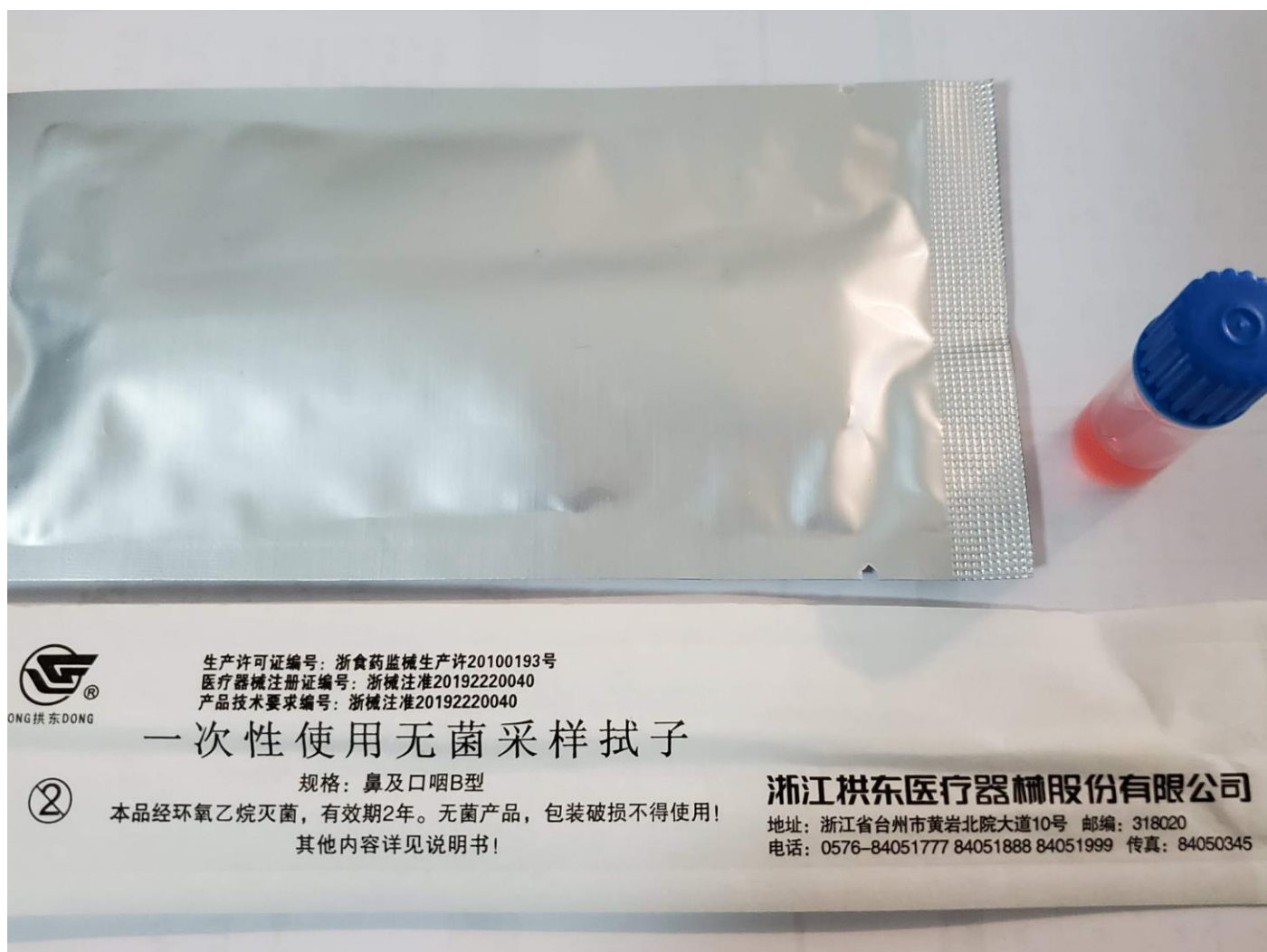


新型コロナウイルス抗原検査キット検査方法（V4）

【検査準備】

①パッケージに含まれている内容物を確認します



- ・咽頭スワブ（綿棒のような物）
- ・検体希釈液
- ・スポイト
- ・紫外線ライト
- ・新型コロナウイルス検査カード。銀色の袋の中に入っています

②時間を測定するためにタイマーを用意してください

③清潔な部屋で、清潔な作業テーブルを用意します

④検査する時はゴム手袋を着用するのが望ましいです

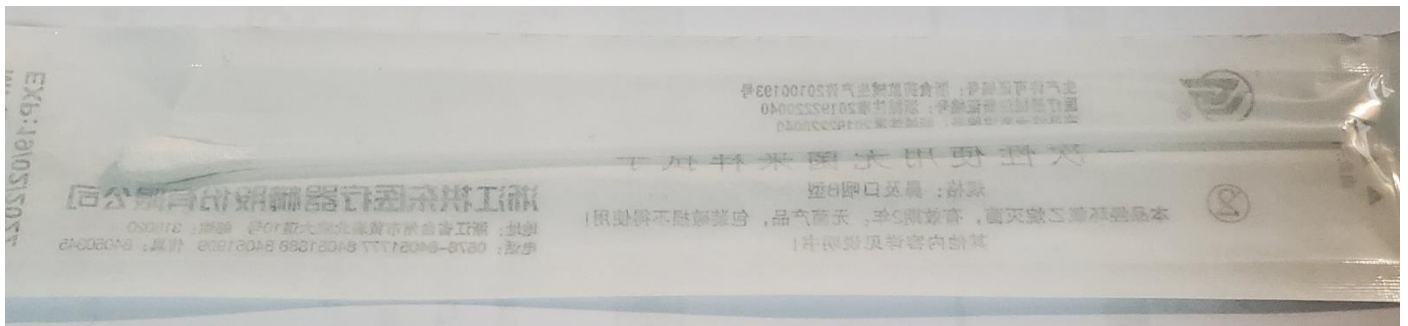
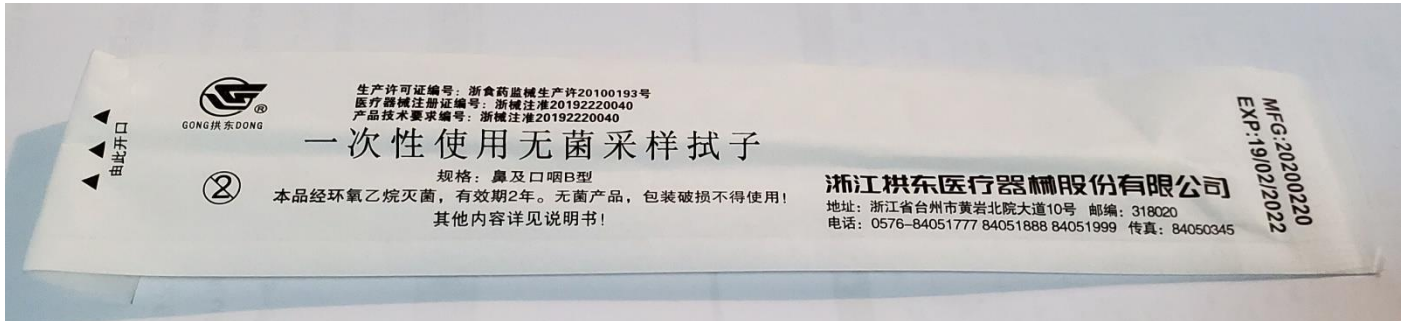
製品は常に改良や印刷の変更（通関対応のため）が行われているため、**写真と現在流通している商品の柄が異なる事が有ります**。扱い方、検査感度などは変わりありません。

【検査前の注意】

- 採取した検体は保存せずできる限り早く、後述の検査方法に従い検査してください。
- 検査カードの入ったアルミ袋は乱暴に取扱わないでください。
- 検査カードの入ったアルミ袋から検査カードを取り出す際のアルミ袋の開封は、袋の耳部を持って開封してください。
- 検査カードは用時開封を守ってください。
- 検査カードの検体滴下部および判定部には手を触れないようにしてください。

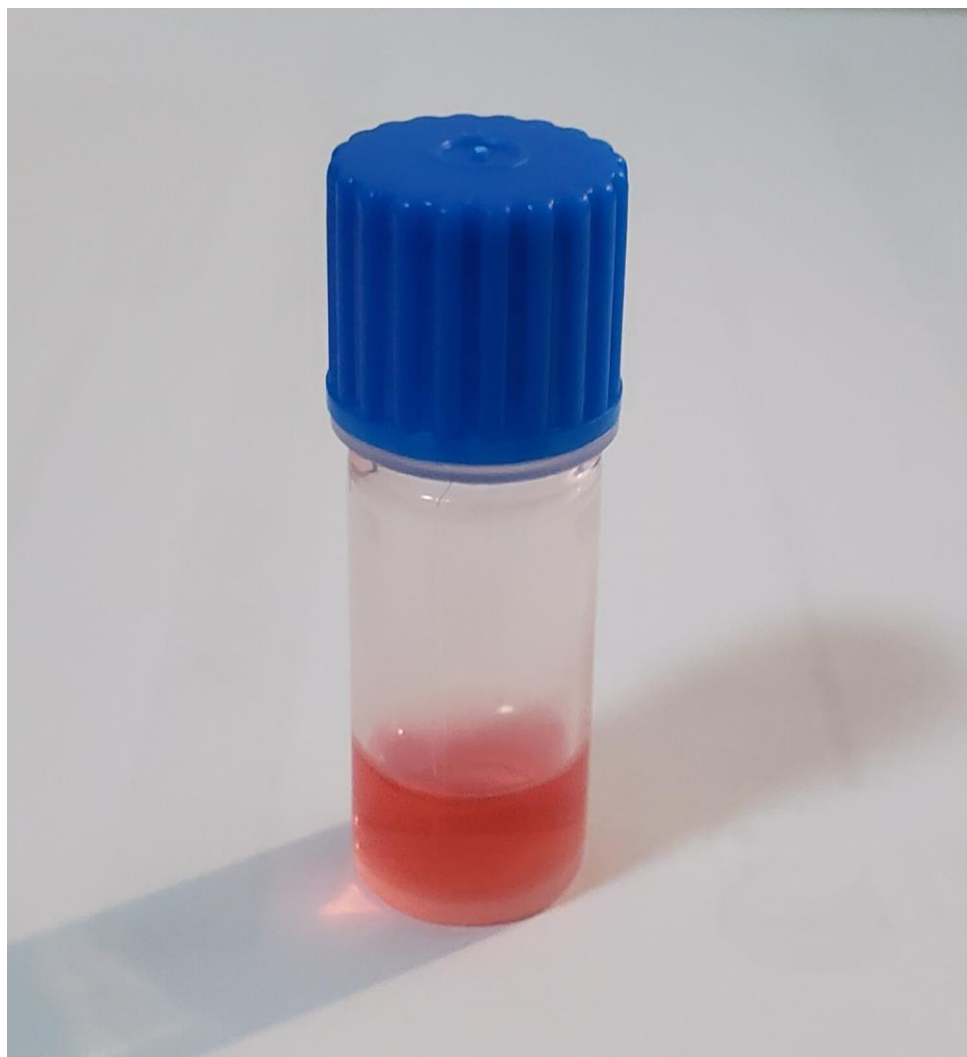
【検査方法】

①咽頭スワブを取り出します



咽頭スワブの先端を喉の奥の方に入れ、数回擦るようにして粘膜表皮を採取します。喉の奥が難しい場合は、鼻の奥でも可能です。唾液だと検査結果が表れないので NG です。

②検体希釈液と粘膜を混ぜます



検体を採取した咽頭スワブの綿球部分を速やかに検体希釈液に浸します。検体希釈液と粘膜がまざるようにかき混ぜます。

【補足】検体希釈液は、空輸などの影響により容器の中で拡散して付着することがあります。その状態では、外から見ると馱の量が少なく見えるかもしれません。もし少なく感じるのであれば、一度容器を縦に置いて、検体希釈液が下に溜まるのをお待ちください。

③スポイトで検体希釈液を吸い上げます



多めに吸い上げてください。検査では2滴使います。

④新型コロナウイルス検査カードを銀の袋から取り出し机の上に水平に置きます。

スポイトを使いサンプル投入口に検体希釈液を投下します



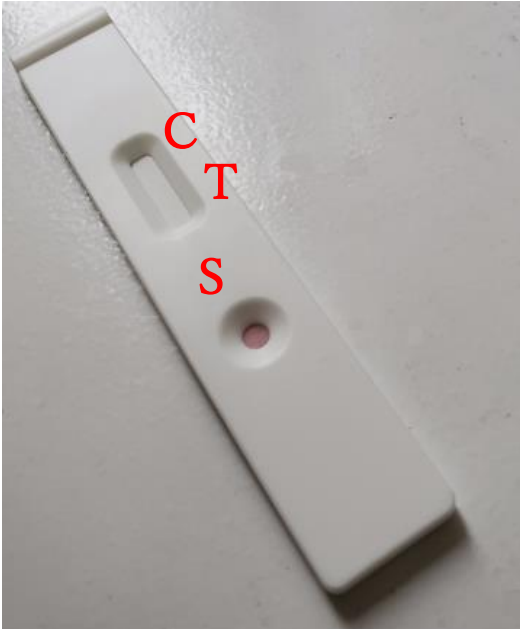
検体希釈液を検査カード「S」の上の部分（**サンプル投入口**と言います）に垂らします。**スポイトを使ってゆっくり2滴投下します。**

具体的は以下のように進めます。

④1. サンプル投入口に検体希釈液を供給した瞬間は、サンプル投入口が部分的に赤く染まるだけで何も起こりません。



④2. 3分くらい様子を見ます。判定部分に検体希釈液が染み込むか見ます。



※静かに観察してください。もし、どうしても染み込む様子が無ければ、1滴くらい追加で垂らします。焦って、大量の液を垂らさないようにしてください。

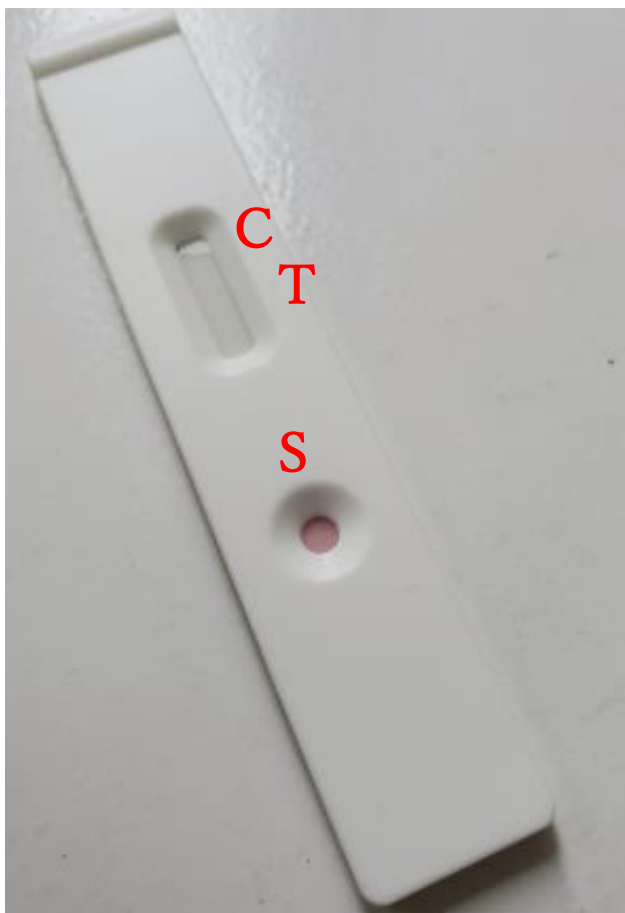
④3. 判定部分に検体希釈液が浸透してくるのを確認します



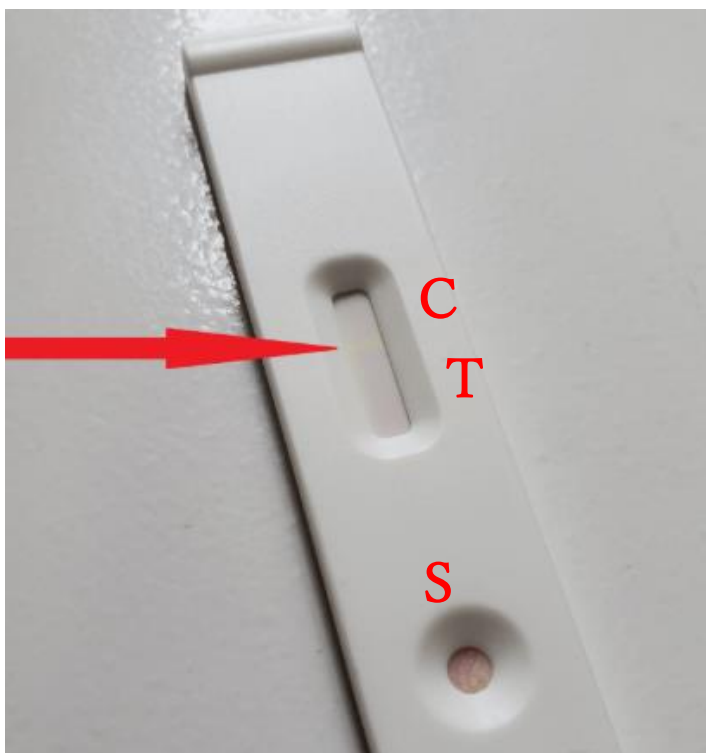
※徐々に浸透してきます。



④4. 判定部分に検体希釈液が完全に染みるのを待ちます。

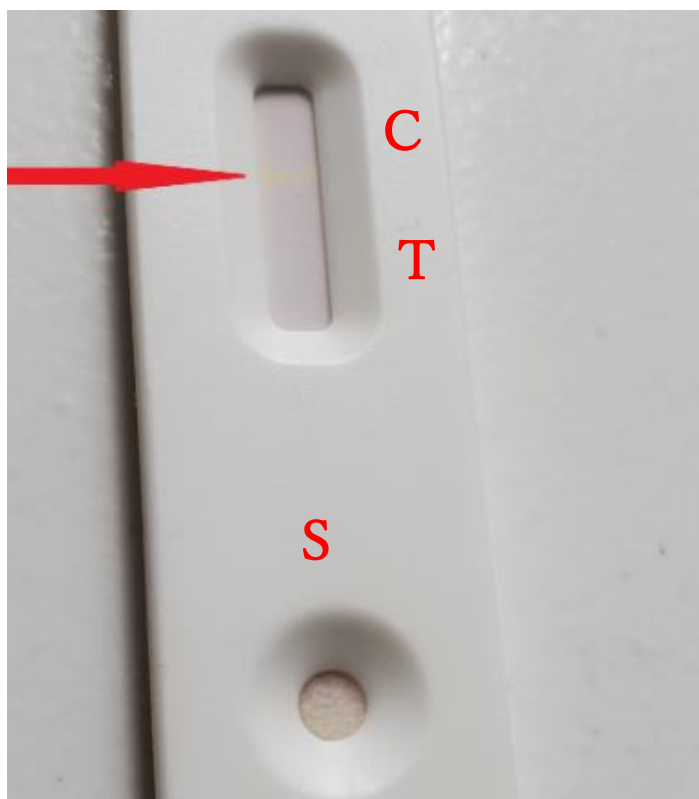


④5. 判定部分に検査結果のラインが浮かび上がるのを待ちます。

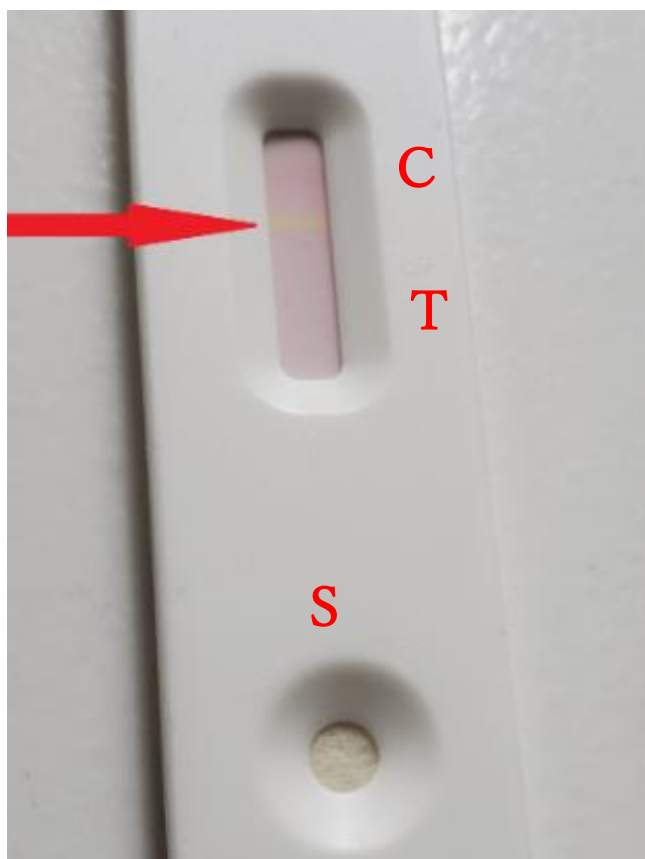


※写真は検体希釈液を垂らした直後の様子です。この段階でも線は薄く出ているので、凝視すれば確認可能です。

③6. 判定部分に検体希釈液が染みてから、約5分待ちます



※判定部分に染みた検体希釈液が乾き始めると、線がより鮮明に見えるようになります。

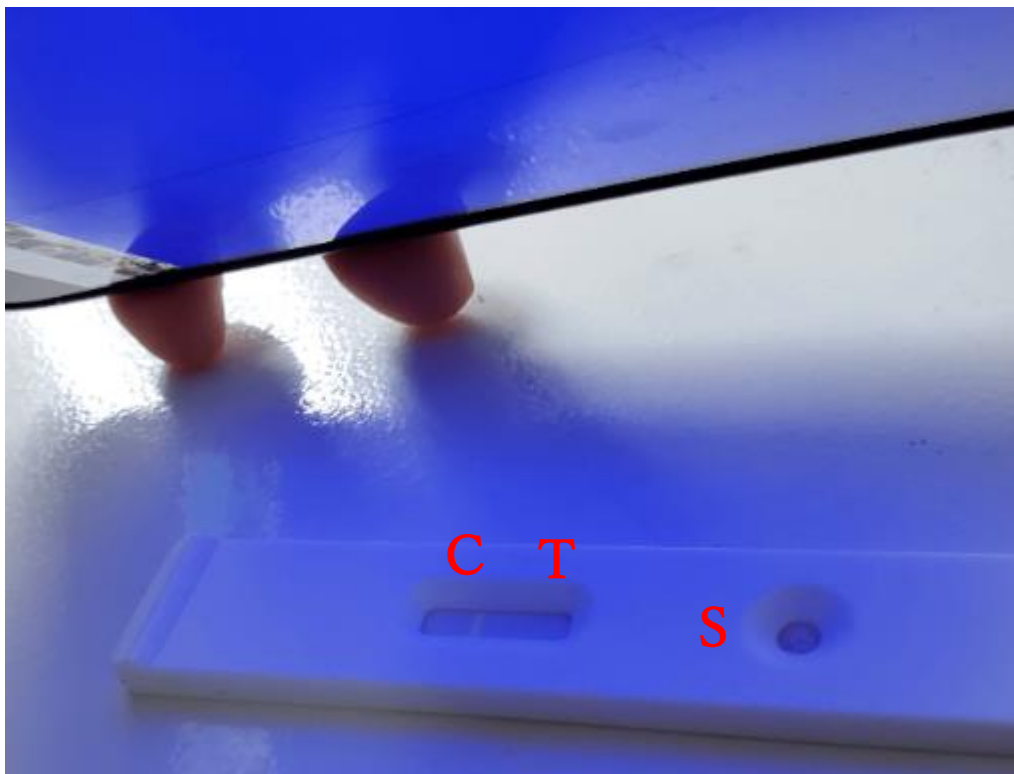


③7. 検査結果の線が見にくい場合は紫外線ライトを併用します。※携帯電話で青い画像を表示して、それをライト代わりに判定部分を照らしても代用できます。



<https://covid19jp.com/wp-content/uploads/blue.jpg>

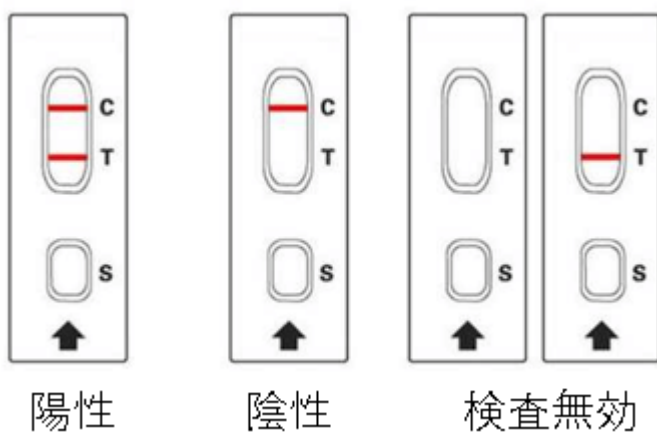
上記の URL にアクセスしてください。ただ単に青い画像が表示されます。



青い光を判定部分に照射すれば、線がよりはっきり見えるようになります。

上記は陰性の例です。

④検査結果を確認します



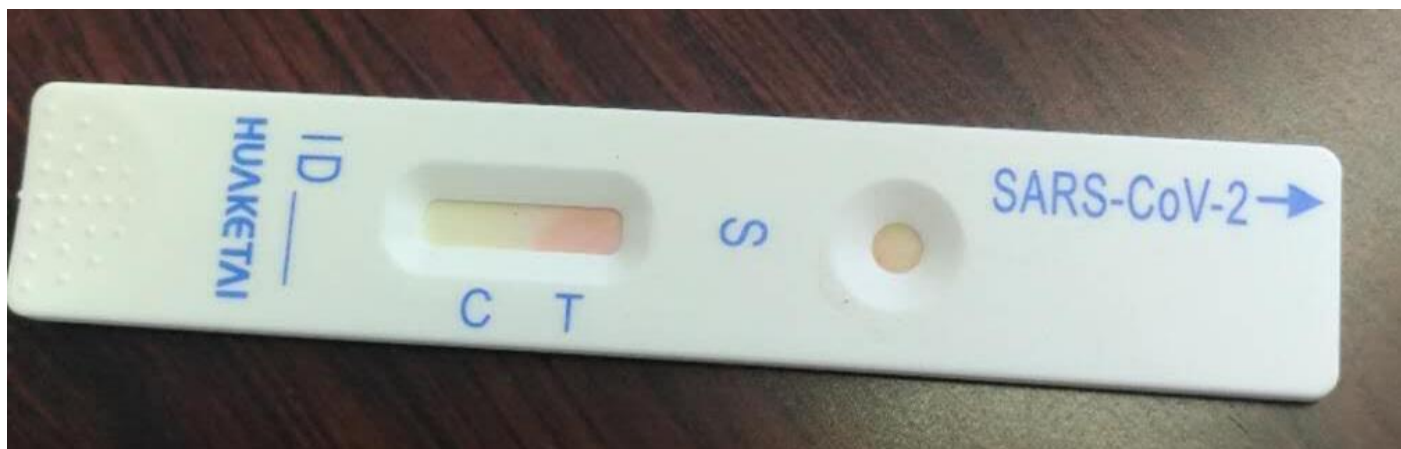
二重線（CとTそれぞれに線）が表示されれば陽性です。T側の線は薄く出るので凝

視してください。

T側の線が薄く表示された場合、それは「弱陽性」を意味します。陰性や偽陽性ではありません。

【注意】この検査結果は、あくまで参考程度と捉え、実際にどうは医師の判断に従ってください。

【補足】以下は検査失敗の例です。考えられる要因は、



- 検体希釈液の垂らしすぎ
- 検体希釈液を直接判定部分に垂らしている、など

検査は丁寧に実施してください。

以上